

【綾瀬川流域総ぐるみの生活排水改善意識改革】

- この事業には河川流域の複数の団体の協力・連携が欠かせないが、体制づくりはしっかりできていて、所定の成果は挙げたものと思われる。作成された事業報告書「綾瀬川流域総ぐるみの生活排水改善意識改革」（平成19年2月）では、協働の過程と成果について、以下のように記されている。「5月提出、6月に審査・決定のスケジュールには、しっかりした計画を検討する余裕はない。基本的に県の立案したものに従う形になった。」「各市においても『県とNPOとの協働』だから、少し協力すればよいといった態度に終始した一面と、積極的に前面で協力した面があり…。この、NPOと行政との協働事業の難しさを示した文面は、今後の「NPO協働提案推進事業」を考える際に看過できるものではない。示唆に富む当報告書の内容を精査して、今後の協働事業に生かすことが必要だと感じた。（なお、当報告書は、発表後は回収されたので、委員が事業の詳細を把握することは難しかったかもしれない。）
- フォーラム・また多くの学校での環境学習という今回のモデル事業における普及啓発活動はすばらしいと思いました。また行政との連携もNPO活動における共働という点で一つのモデルとなったのではないかと思います。ただテーマが大きすぎて、1年では成果が見えない部分もあるかと思いました。今後NPOのマンパワーだけでなく、県内にネットワークを構築していき、大きな活動となるよう行政のサポートは重要と思われます。また環境保全団体の枠の中の活動だけでなく、あらゆるジャンルと横断的なネットワークを構築することにより、より多くの県民に河川浄化が浸透するような活動となるよう期待します。
- 「強いミッションと人とエネルギーとお金」を必要とする今回の事業を完遂させたことは「素晴らしい！」の一語につきます。また、事業報告の中で「行政との協働」における課題点を提示したことにも頭が下がります。「予算付けされてからの事業計画」「県と都、市と市などの行政間の溝」「行政の担当課の縦割り」などを課題として提示していますが、まさにそこが問題点だと私も思います。ただ、今回において各学校が協力的だったことが嬉しいです。多分、相当ご苦労されたとは思いますが。
- 環境問題の中でも、川の浄化については、大変大きな関心が寄せられていることを明らかにした取り組みであった。特に、3900人という多くの人たちが、授業などを通じて学習したことは、今後の取り組みを進める上で、大きな力になることが容易に想像される。発表にあったとおり、この財産を次の年に引き継いでいくことが重要である。
- 立派な事業報告書を発表後に回収するのではなく、簡素な報告書であっても参加者全員に配布し、言葉のみの説明ではなく、OHPやパワーポイントを使用して事業の内容、成果を正確に伝えるべきである。
相互理解と事業実施についての評価項目が互いに大きく異なることは、協働事業としての課題が残る。
- 流域の関係市民団体をうまく纏めながら地域のイベントや事業にどうつなげていくか、受託NPOの力量が試されることになった。NPO自身の自己評価の中でも一部満足いかない部分があったようだが、今回で終わらず今後繋がる大きな一歩になった成果はあったと思う。
- 協働事業というにふさわしい、事業の運営・内容と思いました。今年度の成果は多大なものがあると伺いました。今後はこの活動の継続、発展を目指していただければと思います。なお、本事業のように関係者が多い場合は特に、協働に当たってのルール決め等話し合いを綿密に行っていく必要があったように感じました。